

# 分析結果報告書〔10〕 1/3

## 3. 1 模擬大気試料（模擬 PM2.5 粒子）（ニッケル(Ni)）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003      2. ISO/IEC 17025(ガイド25)      3. MLAP 4. (上記1～3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	( )
経験年数(年)	( )年
実績(年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり      2. なし

### <分析担当者の経験等>

分析の経験 (PM2.5 抽出液)	1. あり      2. なし
分析の経験 (環境水・地下水・排水)	1. あり      2. なし
分析の経験 (土壌)	1. あり      2. なし

### <分析結果>

1回目(mg/kg) 注1～3)	( ) mg/kg
2回目(mg/kg) 注1～3)	( ) mg/kg
3回目(mg/kg) 注1～3)	( ) mg/kg
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する      2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

### <分析方法等>

試料受取日	( )
前処理開始までの模擬 PM2.5 粒子保存日数(日)	( )日
前処理日数(日)	( )日
試験液の調製から分析までの日数(日)	( )日
分析方法	1. ICP質量分析法      2. その他( )

### <ICP質量分析法-1>

試験液希釈率 注)	( )
ICP 質量分析装置 メーカー	1. アジレント      2. サーマフィッシャー      3. パーキンエルマー 4. 島津製作所      5. その他( )
使用年数(年)	( )年
質量分析計	1. 四重極      2. 二重収束      3. その他( )
スペクトル干渉の低減または補正 コリジョン・リアクションセル	1. 行う      2. 行わない
1. 行う場合 使用ガス	1. ヘリウム      2. 水素      3. ヘリウム・水素混合ガス      4. メタン 5. その他( )
1. 行う場合 使用ガス流量(mL/分)	( ) mL/分
補正式による補正	1. 行う      2. 行わない
その他	1. 行う( )      2. 行わない
超音波ネブライザーの使用	1. 行う      2. 行わない
スプレーチャンバーの材質	1. ガラス製      2. 石英製      3. 樹脂製 4. その他( )
装置のメモリー(バックグラウンド)低減対策	1. 行う      2. 行わない
装置メモリー低減方法	1. 酸による洗浄      2. 超純水による洗浄      3. 酸と超純水による洗浄 4. その他( )
使用する洗浄液の種類	( )

注) 希釈しない場合は1を記入する

# 分析結果報告書〔10〕 2/3

## <ICP質量分析法-2>

セリウムまたはバリウムによる酸化物イオン生成比 (%)	( ) %
酸化物イオン生成比の確認に用いたイオン	1. セリウム 2. バリウム
内標準の添加方法	1. オンラインで添加 2. 試験液に事前に添加
オートサンプラの使用における洗浄液の交換頻度	1. 測定ごと 2. 1日ごと 3. 1週間ごと 4. 2週間ごと 5. 1ヶ月ごと 6. その他 ( )
ポンプチューブの交換頻度	1. 測定ごと 2. 1週間~10日ごと 3. 1ヶ月ごと 4. 2~4ヶ月ごと 5. 半年~1年後ごと 6. 感度変動、劣化、汚染時 7. その他 ( )
積分時間 (質量数毎) (秒)	( ) 秒
質量数	1. 60 2. その他 ( )

## <標準物質>

標準原液	
調製方法	1. 自社調製 2. 市販品を購入
メーカー名	1. SPEX 2. 関東化学 3. 富士フイルム和光純薬 4. GLサイエンス 5. メルク 6. SCPサイエンス 7. アジレント 8. アクスタンダード 9. その他 ( )
純度・規格 注1)	( )
濃度 (mg/L)	( ) mg/L
調製・購入からの経過月 (月)	( ) 月
検量線標準液調製からの経過日(日)注2)	( ) 日

注1) 分かる範囲で記入する。

注2) 標準原液をそのまま使用した場合も選択する。用時調製の場合は0を記入する。

## <定量方法等>

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
内標準の種類	1. イットリウム 2. インジウム 3. ガリウム 4. ロジウム 5. コバルト 6. ゲルマニウム 7. スカンジウム 8. その他 ( )
内標準質量数	( )
装置検出下限値 (IDL) 注1) (mg/kg)	( )mg/kg
IDLの算出方法 注2)	1. 大気中微小粒子状物質 (PM2.5) 成分測定マニュアルの無機元素測定法に記載されている方法 2. JIS K 0102 52.5.表52.2に記載されている数値を引用 3. JIS K 0133 (高周波プラズマ質量分析通則) 附属書Aに記載されている方法 4. 3σ法で計算 5. その他 ( )
分析法検出下限値 (MDL) 注1) (mg/kg)	( )mg/kg
MDLの算出方法 注2)	1. 大気中微小粒子状物質 (PM2.5) 成分測定マニュアルの無機元素測定法に記載されている方法 2. JIS K 0102 52.5に記載されている数値を引用 3. JIS K 0133 附属書Aに記載されている方法 4. 3σ法で計算 5. その他 ( )

注1) 試料中の濃度を示す。

注2) ここでσとは特定濃度を繰り返し測定した際の標準偏差をさす。

## <試料の保存状況>

模擬PM2.5粒子 保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 ( )
保存温度 (°C)	約( )°C
試験液 保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 ( )
保存温度 (°C)	約( )°C

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--

